

## 日本の調査捕鯨は国益か否か

### ●各論点の紹介

- ・現状の調査捕鯨の科学的側面

#### 賛成派

主張：科学的有用性はいくつ新発見をしたのかによって決まる。

IWC に提出した論文数を新しく判明した事実とすると、260 もの新発見が調査捕鯨によりなされていることがわかる。実際に、今までわからなかった鯨の生態が数多く判明している。この観点から、日本の調査捕鯨は科学的に有用である。

#### 根拠：日本鯨類研究所

「各種の鯨の分布域や性成熟年齢、そして摂餌状況についてそれぞれの資源量や推定値を出している。」(水産庁ホームページより)

「IWC の科学委員会に提出した論文数は延べ260に上る」(日鯨研ホームページより)

➡調査捕鯨により数々の事実が判明しているから、科学的に有用である

#### 反対派

主張：科学的有用性はその事実が実際に活用されているかどうかで決まる。

この観点からすれば、調査捕鯨は科学的に有用ではない。資源管理のために使用された論文数を「実際に活用された新発見」と解釈することが一般的だが、その数はこれまででたったの1本しかない。応用研究に繋げることが科学の有用性をもたらす。

#### 根拠：国際捕鯨委員会 (IWC)

「JARPA (調査捕鯨の計画名称) の結果として報告された論文リストの中で、IWC の資源管理に関連している国際査読論文は1本である。」(Science News 2015, 6, 19)

主張：このように科学的な有用性の乏しい調査に大量の税金を投入することは非合理的である。

代表的な主張：石井敦 東北大学東北アジア研究センター准教授

「これ(上記の IWC に関連する査読論文数の少なさ)は、日本政府が投じている税金に見合う利益回収としては、悲劇的ともいえるほどみすぼらしいものである。」

(石井敦 2011 『解体新書 捕鯨論争』 新評論 p.131)

➡調査捕鯨によって新発見は多くなされているものの、その有用性は評価されているとはいいがたい。これは税金を投入してまで行うべき事業ではない。

### 賛成派からの反駁

主張：鯨に関する新発見の集積が、全て実用されるというわけではない。

従って、新発見の集積に対して払われる税金は決して無意味ではなく、科学調査のコストとしては妥当である。基礎研究無くして科学の発展は在り得ない。

➡新発見の集積には有用性がある。有用性のある調査捕鯨に対して投資される税金は、科学調査には必要不可欠である。

### 対立軸の構図

#### ① 調査捕鯨の科学的有用性

賛成派：新たに解明された発見の集積(260本)には、科学の有用性がある

OR

反対派：資源管理に実用された新発見(1つ)では、科学の有用性が無い

→科学の有用性を図るには、基礎的研究を優先させるべきか、応用的研究を優先させるべきか

#### ② 税金投入に対する利益回収

賛成派：税金投入は必要費用、したがって継続すべき

OR

反対派：税金投入は無駄、したがって止めるべき

※調査捕鯨に対する補助金額年表を参考に(後部に掲載)

### ●議題

「調査捕鯨を続けるべきか—国にメリットがあるか、無いか」

<参考文献>

- ・小松正之『くじら紛争の真実—その知られざる過去・現在、そして地球の未来—』地球社（2001）
- ・山下渉登『捕鯨』法政大学出版局（2004）
- ・小松正之『よくわかるクジラ論争—捕鯨の未来をひらく—』成山堂書店（2005）
- ・渡辺洋之『捕鯨問題の社会歴史学—現代日本におけるクジラと人間』東信堂（2006）
- ・村山司『鯨類学』東海大学出版（2008）
- ・石井敦『解体新書 捕鯨論争』新評論（2011）
- ・真田康弘 IKAN 南極海捕鯨事件 HP : <http://ika-net.jp/ja/ikan-activities/whaling/298-temporary-bibliographical-essay-on-the-antarctic-whaling>  
(最終アクセス 2016/06/23 1時11分)
- ・一般財団法人日本鯨類研究所 HP 調査研究 科学的貢献度 JARPA II (PDF ファイル)  
<http://www.icrwhale.org/scJARPAJp.html> (最終アクセス 2016/06/23 2時42分)
- ・International Fund for Animal Welfare HP : <http://www.ifaw.org/japan>  
(最終アクセス 2016/06/23 20時57分)
- ・水産庁/捕鯨の部屋 HP 「鯨類捕獲調査の現状について」資料4 (PDF ファイル)  
[http://www.ifa.maff.go.jp/j/study/enyou/pdf/shiryo2\\_4.pdf](http://www.ifa.maff.go.jp/j/study/enyou/pdf/shiryo2_4.pdf)  
(最終アクセス 2016/06/23 21時34分)
- ・J cast ニュース経済 HP : <http://www.j-cast.com/2012/11/18153822.html?p=all>  
(最終アクセス 2016/06/30 3時27分)
- ・月刊宝島 HP(2014年11月07日17:38)<http://blog.takarajima.tkj.jp/archives/1934535.html>  
(最終アクセス 2016/07/01 14時56分)
- ・日本学術振興会 HP 平成27年度科学研究費助成事業の配分について (概要)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/\\_icsFiles/afieldfile/2015/09/16/1361986\\_01\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/_icsFiles/afieldfile/2015/09/16/1361986_01_1.pdf) (最終アクセス 2016/07/01 15時23分)

<参考資料>

## 鯨研への鯨類捕獲調査 円滑化事業などの補助金額

(単位:円)

2014年度	11億1119万 (補正予算未定)
2013年度	7億341万
2012年度	8億8981万
2011年度	7億1520万 (復興予算より約18億円の調査捕鯨費も)
2010年度	7億9466万
2009年度	7億9466万
2008年度	8億7543万
2007年度	9億796万
2006年度	5億4093万(概算)
2005年度	5億3800万(概算)

2007年～14年までは農水省発表資料より。

05、06年度は報道資料を元に作成。1000円以下四捨五入。